

近年のサワラ資源の動向

近年のサワラ資源調査から見たこと

【背景・目的】

岡山県のサワラ漁獲量は昭和55年頃までは100t前後で推移していましたが、テグス網の普及等により、昭和61年に535tまで増加した後、平成11年には5tまで減少しました。漁獲努力量の削減（網の目の合いの拡大等）や受精卵放流等、様々な対策を行い、現在は約50tまで漁獲量が回復しています（図1）。

水産研究所では、資源の動向を把握するため、漁獲されたサワラの年齢や大きさ等について調査を行っています。

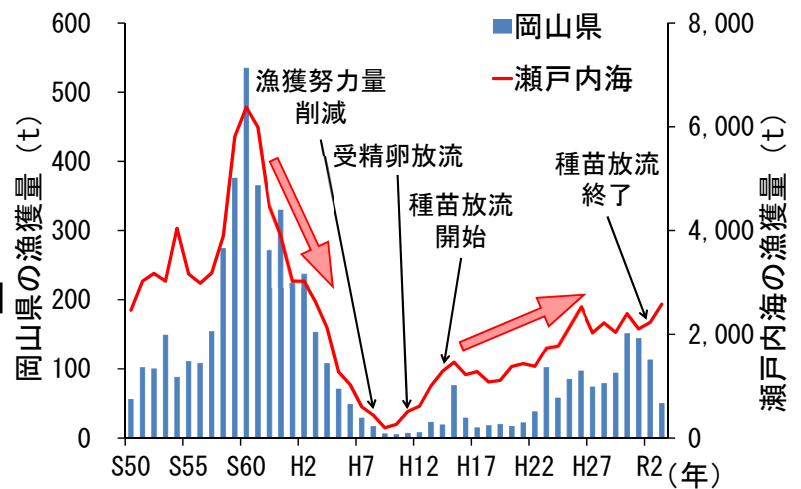


図1 瀬戸内海及び岡山県のサワラ漁獲量の推移

【成果の内容】

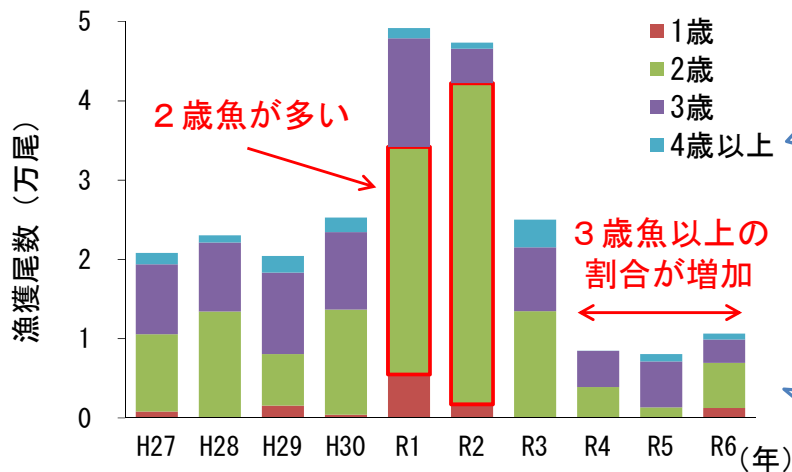


図2 岡山県の年齢別漁獲尾数

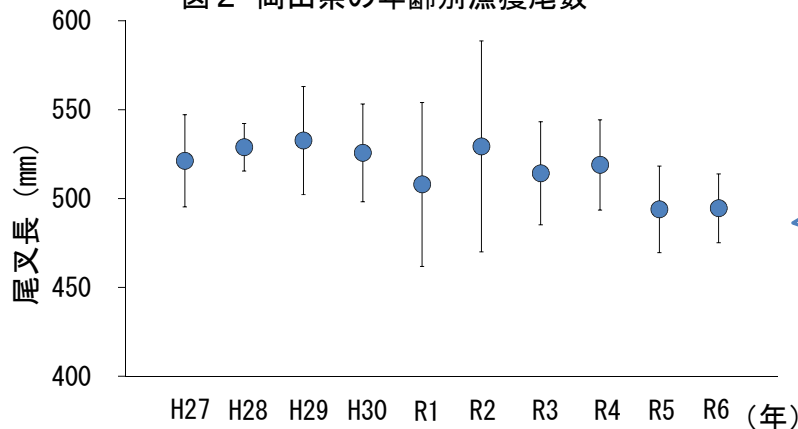


図3 1歳魚の尾叉長の推移（バーは標準偏差）

R1、2に漁獲量が増加
↓
H29、30の新規加入量が多かった

R4以降、高齢魚の割合が増加

1歳魚がやや小型化

- 平成29年及び30年の新規加入量の増加により、令和元年及び2年に漁獲量が増加したものの、その後減少に転じました。また、令和4年以降は、若齢魚の漁獲割合が減少しており、令和2年以降の新規加入量が減少している可能性があります（図2）。
- 1歳魚のサイズ（尾叉長）が小型化している（図3）ことから、餌生物（イカナゴ、カタクチイワシ等）の減少が影響している可能性があります。